



蛇は「再生・若返り」のシンボル

新年あけましておめでとうございます。穏やかな新年をお過ごしのこととお慶び申し上げます。本年の干支は「巳」「へび」。蛇は年に数回「脱皮」を繰り返す。その様子が「生まれ変わるように見える」ということから、「生命力」「若返り」そしてさらには「金運」を象徴する動物として捉えられるようになったようです。

ところで、救急車には杖に巻きついた蛇の図案がラッピングされています。その背景には、スターオブライフという生命の輝きを表したマーク。WHO（世界保健機関）の紋章にも同じ図案が使用され、その背景には国連のマークがあります。この蛇の巻きついている杖は、「アスクレピオスの杖」と呼ばれる医療のシンボル。アスクレピオスは、古代ローマで疫病が流行した時、蛇の姿で現れ、市民を救ったという言い伝えがあります。「杖と蛇」が WHO の紋章として採用されていることから世界共通で医療の象徴を示しているということは明らかです。

蛇が医療現場における象徴となっている訳は：

- (1) 蛇が何度も脱皮することから、生まれ変わり、死と再生の象徴となった。
- (2) 蛇の毒は人を殺しうるが、その毒から薬をつくることもできる。
- (3) 蛇は古代エジプトでは知恵の象徴であり、崇高な動物だった。

などと言われています。どれが正しいにせよ、蛇は古代では死と再生の象徴であったのでしょう。現代では、蛇はとにかく執念深くて気持ち悪いと思われがちで、古代の感覚とは大きく異なります。確かにエジプトのファラオの冠には、蛇の彫刻。蛇は当時、よっぽど死と再生に関わる動物だったのでしょう。また、古代では治療にも使われた蛇を医学の象徴としたのではないとも言われています。

おおさか・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。令和 7 年も、いのちを大切にしながら、身も心も新たに生まれ変わるつもりで新たな目標に向かって生活したいものですね。

